

## 韓国に新しい風が

川島 順 予科21-7  
(越谷市) 航空7-1

8月25日の朝日新聞の書評で面白い本を発見した。『親日派のための弁明』、著者は金完燮（キム・ワンソプ）、光州民主化運動の功労者として韓国政府から「国家偉功者」として顕彰された韓国のジャーナリスト。

書評のサブタイトルに『韓国発「大東亜の亡霊』とあるごとく、韓国政府の反日ナショナリズム教育を徹底批判し、日・韓・中が手を握る五族協和の『大東亜共栄圏の復興』を提唱している。当然ながらこの韓国版は韓国政府から有害図書指定の発禁処分になった。



そこで、荒木和博・荒木信子訳の日本語版が7月に発行され、たちまち30万部のベストセラーになった。

内容の一端を紹介すると、日韓合併は貧しい農業国朝鮮を豊かな工業国に近代化させるために選んだ両国の合意によるもので日本は「侵略者ではない」。対日請求権は1965年の朴政権と日本政府の間で締結された韓日基本条約によって解決済み。太平洋戦争は欧米勢力をアジアから追い出すための「解放戦争」である。独島（竹島）は日本の領土である。「作る会」の教科書、首相靖国神社参拝の肯定。そして、ヨーロッパ共同体、北米国家連合等に対抗するためにも、日本、南北朝鮮、台湾、中国、ASEAN、オーストラリア、ニュージーランドを含む広域経済ブロックの結成の必要性を力説する、等々。

我々日本人の主張を遙かに超えた大胆且つ率直な発言と、言論統制の厳しい韓国国内にあってこのような本を発行した勇氣と洞察力には驚くばかりである。

日本人の書いた本としては『植民地朝鮮の研究』（杉本幹夫著、展転社刊）がある。既にこの本は偕行誌上にも紹介されているが、韓国生まれの60期の川上進⑩が執筆協力者として本の編集に携わっている。日本統治下の朝鮮の実情を併合前の韓国の歴史を含めて極めて克明に史実に基づいて検証している。金完燮氏の本と併わせ読むことによって、ほぼ正確に正しい歴史を読み取ることができるものと推薦する次第である。